

オオサキワンダーミュージアム 人と大自然の青空博物館

vol.31

世界農業遺産「大崎耕土」でSDGs
を学ぶ

世界農業遺産推進課自然共生推進担当 ☎23-2281

世界農業遺産「大崎耕土」のフィールドミュージアムを使った、武蔵野大学による「世界農業遺産大崎耕土エコツアーフィールドスタディ」が9月に開催されました。ツアーは、2週にわたり、武蔵野大学1年生の計38人が参加しました。SDGsの17のゴールと大崎耕土の特徴を体感して学ぶため、大崎広域中央クリーンセンターなどの施設見学を行ったほか、地域住民との触れ合いを楽しみながら、居久根の手入れ体験や餅作り体験、化女沼で植栽活動などを行いました。



▲秋の七草オミナエシを植栽

学生自らが関心や疑問を持ち、地域の課題解決などが話し合われるなど、大崎耕土を学びの場とするツアーとなりました。

大崎耕土ウェブサイトはこちら▶



大崎さんの食育コラム

その18

11月24日(いいにほんしょく)は和食の日!



世界農業遺産推進課企画調整担当 ☎23-2281

「和食」とは、和食料理のことだけでなく、日本の豊かな自然や気候のもとで生まれ、昔から受け継いできた食文化のことをいうよ。栄養バランスが良く、健康的な食事で、家庭などで食事を共にすることで、絆を強くする役割を果たしてきたんだ。

「和食」として、ユネスコ無形文化財に登録されているよ。だけど、近年ではライフスタイルの変化で、この和食文化が失われつつあるんだ。家庭で実践したい和食の取り組みとして、
① 食事のときのあいさつや箸を正しく使う
② 郷土料理を取り入れる
③ 旬の食材を味わう
などがあるよ。日本の大切な食文化を未来に伝えていこう。

天地人

市長コラム

日本語学校開設に向けて!

10月1日付で、市役所内に日本語学校推進室を開設いたしました。

我が国は、人口減少社会の到来と、国際化・グローバル化の進展を受けて外国人の受け入れ、共生できる環境作りを推し進めております。

宮城県でも「新・宮城の将来ビジョン」の個別計画として位置づけられた「5期みやぎ国際戦略プラン」において、「外国人材の受け入れと多文化共生の推進」の取り組みを強化するとしております。

時代の潮流を受けて、宮城県では外国人が安心して生活し、学び、働くことのできる環境整備、外国人から選ばれる地域づくりを目指して市町村と連携し、公的日本語学校を開設することを表明されました。

本市も、人口減少に伴う地域活力の低下、人材不足が懸念されており、交流人口の拡大や産業分野における外国人材の活用を期待を

お持ちしております。



大崎市長 伊藤康志

寄せております。本市は、交通アクセスに恵まれております。ものづくり企業で外国人材との交流の蓄積もあります。多文化共生活動の素地もあり、生活の利便性の強みもあります。日本の原風景を代表する世界農業遺産に認定された大崎耕土も有しております。

それらの優位性を武器に、県内第一号の公立日本語学校の準備にキックオフしました。

日本語学校を拠点として、本市の地域活性化、交流人口の増加、産業振興などを通して「外国人材から選ばれた大崎市」を実現してまいります。

皆様のご意見・ご提言をお待ちしております。

大崎市くらしの便利帳を作成しています
—令和5年4月の発行・配布を予定—

秘書広報課 広報広聴担当 ☎23-5023

市では、「大崎市くらしの便利帳」を株式会社サイネックスと協働発行します。完成次第、市内全戸に配布いたします。

市内の事業主の皆さんへ
くらしの便利帳に掲載する広告を募集するため、株式会社サイネックスの職員が事業所などを訪問、ご連絡をする場合があります。あらかじめご理解願います。

【広告募集に関する問い合わせ】
株式会社サイネックス 仙台支店
〒982-0034 仙台市太白区西多賀4-13-8
TEL 022-243-6671 FAX 022-307-3071
Eメール s-sendai@scinex.co.jp

今月の表紙
10月9日、松山地域で、第15回松山ふれあい運動会が開催されました。この運動会は、昭和25年から続く歴史ある運動会で、松山地域の住民参加型スポーツイベントです。

長縄跳び競技「心を合わせて1.2.3」では、子どもから大人までさまざまな年代の住民が参加しました。この競技では、スタートの合図で一斉に6人が跳び、縄が止まるまで何回跳べるかを競い合いました。競技の終盤では、苦しい表情を見せながらも記録を伸ばそうと、参加者たちは一生懸命でした。最高記録は45回で、跳び終えた参加者へ向けて、会場からは大きな拍手が送られました。



令和元年東日本台風による中止や新型コロナウイルスの影響で、4年ぶりの開催となった松山ふれあい運動会。夢中になって競技に取り組み、気持ちのいい汗を流しました。

みんなで知ろう! 考えよう! 行動しよう!

Let's! 男女共同参画

vol.4
SDGsゴール5「ジェンダー平等」

まちづくり推進課男女共同参画推進室 ☎23-2103

市が進める取り組みの一つに、「審議会等委員の女性登用率」を令和5年度に40パーセントとする達成目標があります。現時点では、全体で27.8パーセントで、目標達成までにはあと110人の女性が審議会等委員へ参画する必要があります。44ある審議会のうち、既に目標を達成している審議会もあれば、女性がゼロの審議会もあります。

また、地域活動などを行う組織や団体で役員や代表者を選ぶときにも、男性が選ばれる傾向があります。363人が務めている行政区長のうち、女性は5人で、全体の1.4パーセントです。

年齢や立場、性別などにかかわらず、地域の構成員として、対等に役割を分かち合える、大崎市のSDGsゴール5「ジェンダー平等」を、家庭と地域から実現していきましょう。

大崎市女性人材リスト登録者を随時募集中です!
詳しくは問い合わせください。▲市ウェブサイト



広報おおさき11月号 2022 No.200

Main Contents	目次
04 大崎の秋 まつりの秋	
06 広報おおさき 200号	
08 CITY TOPICS	
09 Discover OSAKI	
10 新型コロナウイルスワクチン接種情報	
11 OSAKI Culture	
12 オオサキプレイガイド	
くらしの情報	
14 給与支払報告書を作成する準備は早めに行いましょう ほか	
24 子育て支援情報 ほか	
26 相談コーナー	
27 休日救急当番医 ほか	
28 おおさきのMain Dish	